



# 六甲山魅力再発見市民セミナー

市民セミナーVol.11  
名所図会から見た六甲山と神戸/田原 直樹  
2004年2月発行



西国名所図会

## 第11回テーマ:

### 名所図会から見た六甲山と神戸

#### 講演内容

- ①名所図会を読む
- ②名所図会に見る地域の変貌
- ③名所図会が教えてくれる  
二百年前の植生
- ④昔の里山は豊かだったのか?

実施日：平成16年2月14日(土)

午後1時～3時40分

場所：六甲山YMCA 里見ホール



講師：田原 直樹さん

#### プロフィール

昭和28年生まれ 大阪大学大学院工学研究科博士課程修了。専門は都市計画、環境計画。建設会社、青年海外協力隊等を経て研究者の道へ。現在兵庫県立人と自然の博物館主任研究員

### 灘区長もひょっこりご出席

寒さが和らぎ、六甲山YMCAの星野池の氷もほとんど溶けていました。開講時に灘区長の小川雄三さんがひょっこり顔を出され、皆驚きました。

里見ホールのマントルピースで焼き上げた焼き芋を頬張りながら、気軽に講演を聞ける雰囲気小川さんも感心されました。そして、発足した「灘百選の会」を抜かりなくPRされました。



灘区長 小川雄三さん

### 田原さんは異色の経歴の持ち主

田原さんは、青年海外協力隊でアフリカのマラウイに行かれてカルチャーショックを受け、建築会社の技術者から開発途上国の都市計画の研究に転進されました。そして「ひとはく」の設立時から運営に参画されています。自然が売り物の「ひとはく」では自然が一番遠い存在だと自称され、名所図会から植生の変遷を探るといふ比類のない研究をされています。

### 名所図会の「ひととき」にビックリ!

「ひとはく」所蔵の「空飛ぶ絵師の鳥瞰図」が特徴の「西国名所図会」と、「摂津名所図会」を「旅行ガイド」に、200年前の江戸時代にタイムスリップしました。「江戸時代の裏六甲は樹木があったが、表六甲は禿山だった」という結論への、ま

るでパズルを解くような緻密な解析に一同が惹き込まれました。お寺と神社には当時の景観や植生が残っていること、湊川神社や生田の杜の変遷、明治維新から50年で市街化した神戸、失われた松原を探すなど、興味の尽きないお話でした。

### 冬季の市民セミナーにも確かな手応え

市民セミナーも11回を経ました。定員近くの参加者が集まって、お互いに交流を図りこれまで以上に盛り上がりました。六甲山の楽しみ方も板につき、参加者主体で運営するという取り組みも着実に展開していると、勇気づけられています。

八木さんには講演記録のテープ起こし、山口さんと山本さんには感想文を引き受けていただき、ありがとうございました。

※ 詳しくは1～2ページをお読みください。

### 参加の感想 あけびグループ 山口紀子さん

年が明け、はじめて六甲山に登ってきました。当日は日差しが暖かく感じられ、春の芽吹きも感じられました。名所図会を現在の景観と対比させ、ほぼ同じところも多いということにはとても興味深く新鮮な驚きでした。200年も前に描かれた図、時々何気なく目にするものも、こういった観点で見るととても面白いものです。生田神社の松ぎらいのエピソードや神戸の町並み等、名所図会と合わせて見ると楽しいものですね。歴史をたどるウォークをしてみたいです。

主催：六甲山自然保護センターを活用する会

後援：兵庫県神戸県民局 兵庫県立人と自然の博物館

灘区役所